

## JAL闘争を支える京都の会News No. 74

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX: 075-531-3856 E-mail: komai123@kfa.biglobe.ne.jp

# 伏見・大手筋で JAL不当解雇 撤回宣伝行動 話かけて来られる 方多く ビラの受け取りも良く

6月8日、JAL 165名を解雇したJAL稲盛会長（当時 現在JAL名誉顧問）の地元である大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「ユニオンネットワーク・京都」に参加される労働者の皆さんや「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなどに参加していただきました。JAL争議団からは神瀬麻里子さん、東京から来られた細井砂織さんの2名に参加していただきました。



大きな横断幕2本を掲げて、道行く人にハンドマイクで訴え、「京都の会」の駒井事務局長は「JAL 165名の整理解雇は、モノ言う労働者の排除と労働組合の



影響力を弱めることを狙ったもので、安全に逆行するものである。」と訴えました。JAL争議団の神瀬さんは「ここ伏見は京セラの創業者である稲盛和夫氏の地元である。私たちが解雇になったときの最高責任者はこの稲盛和夫氏である。稲盛さんが私たち165

名の首を無残にも切った後、『あの解雇は必要でなかった。』と記者会見や裁判所での証言で述べている。なぜ解雇は必要でなかったのに、私たちは10年間職場に戻れていないのか。私たちは労働組合で追及し安全でないものには



安全でない。ダメなものにはダメと言ってきた。今回の首切りは労働組合の弱体化が目的だ。解雇されて以降、私たちの要求がまったくJALに届いていない。私たちは職場に復帰したいと思っている。そして復帰が叶わない人には金銭要求をしている。私たちは今こそ日本航空に戻り、自分の経験を後輩に伝えていきたい。それが私たちの願いである。ぜひ稲盛さんに皆さんからも解雇撤回のお願いをしてほしい。」と訴えました。JAL争議団の細井さんは「JAL破綻の原因は米国から貿易不均等は正



のため必要のないジャンボ機を113機も買わされたことや、ホテル・リゾート事業で1300億円を損失したことなど、航空政策の誤りとJAL経営の長年にわたる乱脈、放漫経営が原因である。にもかかわらず、私たちが解雇されたことはまったく納得できない。」と訴えました。

宣伝している時に通りがかった70才くらいの女性は「若い人はこういう運動に関心ね。」と言われたので、宣伝行動に参加していたAさんが「そう言われますが、若い人でも熱心に支援している人はいます。稲盛さんが10年半前に首を切った人たちは闘う労働組合の中心メンバーで、ベテランが多くどうしても年配者が多いです。」と言うと、その女性が「私は国会議員と親しい人がいるけど、何か要望したいことは？」と言われたのでAさんが「明日JHUという解雇された人たちが新たに



つくった労働組合で都労委に申し入れするのに、自民党、立憲民主党、社民党、共産党、無所属の国会議員に支援署名いただいています。その方も多分応援していただいているんだと思いますので、よろしくお願いします。」と言うと喜んでおられました。あと心療内科の医師



と長時間話をし、「応援するのでまた連絡してほしい。」と言われたり、アメリカの労働事情に詳しい方がたくさんアドバイスをくださったたり、中年女性の二人連れの方が「あっ、稲盛さんがお金儲けのための首切りね。」とチラシを受け取られたり、たくさんの会話ができた宣伝行動でした。最後に争議団を先頭に大手筋商店街をねり歩く「モモタロウ宣伝」をおこない、買い物をされている方々の注目を浴びました。

**次回 宣伝行動 （呼びかけ JAL闘争を支える京都の会）**

**7月25日(日) 午後2時～3時 大手筋商店街**